

平成 30 年 10 月 1 日に思う

企業の社会貢献の基本は“本業を通じて行うこと”であり、何事も“本業を<sup>おろそ</sup>疎かにしてはならない”ということが世の常であります。これは、子どもの社会においても言えることで、“学生の本分（本業）は勉強”であります。

このほど私の手元に、その通り実践されていることを証明する朗報が届きました。この春に実施された「全国学力・学習状況調査」において、川上小学校の6年生が日ごろの努力をいかんなく発揮し、優秀な成績を収めたというものです。この調査は、全国の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的に、平成 19 年度から文部科学省により実施されています。あらためて、頑張った子どもたちに対して、皆さんと一緒に大きな拍手を贈りたいと思います。

その成績を少し紹介すると、国語 A は 98.0%（全国平均 70.7%、県平均 69.0%）・算数 B は 74.0%（全国平均 60.3%、県平均 50.0%）・理科は 78.0%（全国平均 60.3%、県平均 59.0%）等となっています。※数字は正答率、A は基礎力・B は応用力を求めるもの

また、学習状況調査の結果、規範意識が高く、勉強に向き合う姿勢も素晴らしいことが明確になっています。これは、日常生活のあり方が学習成果に大いに反映することを示しています。

子どもたちの日々の努力はもちろんのこと、その背景には“教育村”としての歴史と、それを踏まえた地域や学校、家庭、行政の連携やつながりが確かであったことが証されたと考えています。今後も現在取り組んでいる「保小中校舎一元化事業」を加速させるなど、「村づくりは人づくり、人づくりは教育」の精神のもと、教育環境のさらなる向上をめざす決意です。